



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
財団法人 北海道文化財団

北 の と び ら

No.
84

▶ インタビュー 中村好文

▶ 座談会 生のステージは人を結ぶ魔法
青木勝美 / 有村幸盛 / 大西赤雄 / 水溜真由美 / 若林良三

From COVER

文：児玉源太郎／写真：原田直樹



北のとびら

No.
84

Contents

- 3 アートギャラリー（第15回） 川上加奈（彫刻家）
- 4 インタビュー 中村好文（建築家）
- 6 座談会
生のステージは人を結ぶ魔法
青木勝美／有村幸盛／大西赤雄／水溜真由美／若林良三
- 10 地域からのお便り
松前町
ウィンドアンサンブル・ポロゴとの夢の共演
七飯町
演劇塾ななえ公演「ナナエ ノ キセキ」の軌跡
- 12 素晴らしき短編映像の世界（第3回）
「短編映画と映像教育」 久保俊哉
- 14 この街 この人（第11回）
鹿追町

Information

平成22年度 北海道文化財団 主催事業の開催地等募集

募集内容は当財団ホームページをご覧ください。
内容の詳細についてはお気軽にお問合せください。

※募集期間：2010年3月上旬～4月下旬（予定）

- 舞台創造支援事業
- アドバイザー派遣事業
- 文化の宅配便事業
- アート体感教室事業

平成22年2月発行／財団法人北海道文化財団
http://www.haf.jp
デザイン／株式会社アウラ



資源の保護と環境への配慮を考え、
本紙には古紙100%の再生紙、
インクは大豆油インクを使用しております。

「ぐるぐるぐる
～その交差する点で～」

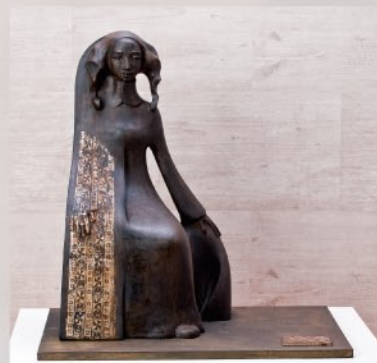
2010年1月29～31日
かでの2・7 かでのホール
2月7日
浦河町総合文化会館 文化ホール
2月13日
まなみーる 岩見沢市文化センター
中ホール

舞台はフランス語で「交差点」の意味を持つ喫茶店「カルフル」。画家になる夢を諦め、喫茶店を経営する男のところへ、「カフェを経営したい」と望みだけは高い女がやってくることで物語は始まる。そして、どっちつかずの女、思い込みの激しい男など、まるで接点の無さそうな8人の男女が物語の進展とともに、ぐるぐるぐるとながらだしていく…。

平成21年度の北海道舞台熟演劇公演は、昨年度

の「ぐるぐる地獄」の発展した作品。納谷真大が脚本・演出を引き続き担当し、広いようどときに狭く、ときに奇妙なつながりを見せる人間模様をコミカルかつハートウォーミングに描き上げた。8人それぞれの人生が岐路に立っている場面設定。観る方もそれぞれの立場、状況でいろんな感じ方が出来るが、「断固たる決意で変わろうとなければ、何も変わねえんだよ！」というセリフが一番印象に残った。

幻想を實體化させる漆の存在感



「♥12」 脱活乾漆、銀箔／65×60×45cm／2010年

もともと木彫の作品を制作していた川上さんは、同じく彫刻家の夫・勉さんから脱活乾漆を学んだ。古くから伝わるこの技法を使って表現するのは、日ごろよく読む児童文学や絵本の世界。「鏡の国のアリス」や「星の王子さま」などから作品のモチーフやタイトルのヒントを得ることが多いのだとか。木彫や石膏よりきめ細かい表現ができるので、自分の創りたいものにむいていると川上さんは言う。

何層にも貼り固められ磨かれることで鈍く艶を持った漆は、中が空洞にもかかわらずあるものはブロンズ像のような、またあるものは大木を削り出したかのような重厚な存在感を放つ。トランプの12（クイーン）を擬人化した「♥12」は最新作。ゆったりと静座するその姿からは女王の威厳が漂う。本の世界に閉じこめられていたファンタジーが、川上さんの手によって次々と実体化され飛び出してくるようだ。



彫刻家

川上加奈

KAWAKAMI Kana

江別市在住。2001年北海道浅井学園大学短期大学部工業美術学科彫刻コース卒業。2000年以降毎年全道展に出演。2003年・2004年に国画会展出演。ほかに札幌を中心に個展やグループ展を精力的に行う。

デザインに必要なのは「覚悟」

居心地や使いやすさを第一に考えた「普段着のような家づくり」をモットーに、数多くの住宅や建築、家具をデザインしてきた建築家の中村好文さん。

「アート体感教室」で丸瀬布の子どもたちとツリーハウスを作り、「エコデザインアワード2009」の特別審査員を務められた中村さんに、ご自身が考えるデザインの流儀についてお話をうかがいました。

「アート体感教室」で丸瀬布の子どもたちと

ツリーハウスを作り、「エコデザインアワード

2009」の特別審査員を務められた中村

さんに、ご自身が考えるデザインの流儀

についてお話をうかがいました。

中村好文 「建築家」

NAKAMURA Yoshifumi

建築家。1948年、千葉県出身。1972年、武蔵野美術大学建築学科卒業後、栄道建築設計事務所勤務。1976年、都立品川職業訓練校木工科で家具製作を学ぶ。1976〜80年、吉村順三設計事務所勤務。1981年、レミングハウス設立。1987年、「三谷さんの家」で第1回吉岡賞受賞。1993年、「諸職の技術を生かした住宅」で第18回吉田五十八賞特別賞受賞。現在、日本大学生産工学部教授。ほかにも「住宅巡礼」（新潮社）、「普段着の住宅術」（王国社）、「住宅読本」（新潮社）など著書多数。

ツリーハウスは

自然の造形を「読み解く」面白さ

丸瀬布では、ミニチュアツリーハウスを作りました。みんなすごく穏やかに、素直に楽しみながら取り組んでいました。

ツリーハウスの魅力は、「読み解く」面白さ。たとえば一本の丸太を渡すことでそこに床ができ、渡し方によって面積が違ってくる。自然の樹形の中に



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
財団法人 北海道文化財団

※2 北海道文化財団 アート体感教室2009

丸瀬布小学校6年生×中村好文「ツリーハウスを作ろう」

日時：2009年10月26日(月)・27日(火)

アート体感教室は、子どもたちが国内外で活躍するアーティストと身近に交流し、表現することの楽しさを体感する事業です。今回は、遠軽町立丸瀬布小学校6年生の子どもたちが、中村好文さんと一緒に想像力をつけて自分らしい小屋(ミニチュアのツリーハウス)を作ることを体験しました。

※平成22年度の開催地等を募集中です。

旅、本、映画……。人と同じくヒントはここから

自分のデザインにいちばん影響を与えているのは「旅」ですね。若いころから世界中を旅して有名な建築物や風土、住んでいる人の暮らしなどを見て歩きました。当時の海外旅行は今の金額にすると100万円近くかかりましたから、学生時代はもっぱら日本国内本格的に海外に出ていったのは27、28歳からで、主にヨーロッパの建築を見て回りました。

映画や本から学んだことも多いですね。そうしたものの影響が具体的な形で作品に現れることはありませんが、ものを作るというのはクライアントという相手のいる商売ですから、人と向き合ったときの想像力を養ったり、ヒントをもらったりすることは多いかな。

滝川からはじまった北海道との縁

北海道とのかかわりは、2004年に滝川にある五十嵐威暢さんの「太郎吉蔵」を改修したときから。その後、札幌の人たちが僕の展覧会の巡回展の実現に尽力してくれて、そこから地元のおさまさまな人たちとのつながりが広がっていききました。

そんなおり、北海道文化財団の磯田さんから、構想中の「君の椅子プロジェクト」(※1)の話を持ちかけられて、第一回目のデザインと以降に続く作家のコーディネートをお手伝いさせていただいています。

5年前からは「SAPPOROエコデザインプロジェクト」(※2)にも携わり、今回の「アート体感教室」(※3)では丸瀬布の子どもたちと一緒にワークショップを行ったり、北海道とはなにかと縁がありますね。

いっぱい詰まっている空間を読み解くわけです。20分の1サイズの模型を作って、自分たちも小さくなったつもりでいろいろなポーズの写真を撮ってそこに置いてみると、導線やレイアウトが見えてきて、想像力が活性化されますよ。

色あせない普遍性
理想は「ジーンズのような家」

「エコデザインアワード」では特別審査員をしましたが、僕の中に「エコデザイン」とは「といった抽象的な概念ではとらえていません。ただ、デザイン全体に言えることですが、時間というもののがすごく重要になってくると思います。

普通でちょうどいいことを意味する「エンケルン」と、古趣を表す「パティナ」という言葉がありますが、僕のデザインはまさにそれ。使い勝手がよく、なおかつ時間が経っても色あせず、むしろ古びたときに美しくなる。そういうことが「エコデザイン」とつながるのかもしれない。

いつも心がけるのは、普遍性を持った「ジーンズみたいな家」。ちゃんとした素材で丈夫に織られてしっかり縫製され、時間が経つほど風合いを増し

て洗いらすほどに魅力が出てくる。僕が作るのも、そんな普段着のような家でありたいと考えています。

使いやすさと美しさの両立
デザインにもっと「厳しさ」を

今は「デザイン」という言葉が誤解されていますよね。物珍しさとかファンシーさと同義語になっている。それではただのアイデア合戦になってしまいます。デザインというのはもっと厳しい言葉だったはず。うわべだけかっこいいものを作るのは簡単ですが、機能性や価格の妥当性を考えて、その上で美しさを追求するのは本来難しいことなんです。

いいデザインは寿命が長い分、もの自体も丈夫でなければならぬ。使う人のくらしが365日も、そして何年も続くというのを視野に入れて、それだけの時間に堪えるものを作るのはすごくハードルが高いと思います。でもデザインをやる人に必要なのは、そういう覚悟ではないでしょうか。

※1 君の椅子プロジェクト

「誕生する子どもを迎える喜びを、地域の人々で分かち合いたい」。そんな思いから2006年に東川町で始まったプロジェクト。生まれてくる子どもたちに道産木材で作ったオリジナルデザインの椅子を贈っています。記念すべき第1回目のデザインを中村好文さんが務め、以降もコーディネーターとしてかかわっています。

※3 SAPPORO エコデザインプロジェクト

「デザインで環境を考えよう」をコンセプトに2005年から始まった、北海道文化財団共催のプロジェクト。「SAPPOROエコデザインアワード」の受賞作は、北海道から世界に発信するエコブランドとして製品化・販売されています。今回は、特別審査員の中村好文さんによる講演会も行われました。

<http://sapporoecodesign.net>



まちの文化創造事業

取材協力
■ SAPPORO
エコデザインプロジェクト
実行委員会
■ (有)叶多プランニング

生のステージは人を結ぶ魔法

青木勝美／有村幸盛／大西赤雄／水溜真由美／若林良三

北海道内でもいろいろな舞台公演を提供するシステムがあり、それぞれに地域に根ざし、数多くの鑑賞公演が行われています。インターネットの普及により大きな変革期を迎えつつある今も、変わらないのは「生のステージをみんな一緒に」という熱い想い。今回はそうしたプロモートの方々を迎え、組織の仕組みやエピソード、そしてこれからの方向などについて語っていただきました。



大西赤雄
アート・マネジメント ユウ 代表

有村幸盛
旭川市民劇場 事務局長

青木勝美
空知音楽鑑賞団体協議会 代表幹事

鑑賞組織では会員が主催者で、その仕組みこそが命綱。

水溜 道内各地で、生のステージを観る環境は、ここ10年ぐらいで大きく変わってきたと思います。そこでまずは皆さんがどのような活動をされてきたのかをお聞かせください。

有村 旭川市民劇場は会員制の演劇鑑賞会です。現在は会員二千百名で、参加方法は家族や友人など3名以上のサークル単位が条件。年6回の公演を鑑賞でき、設営や運営にも携わってもらっています。

水溜 会員たちが観たい舞台や作品の希望を出すこともできるのですか？

有村 そうです。会員の意見も大事にしたいですし、私たち事務局もこの作品がいいと思ったものは強く推薦し、企画を実現するようにしています。

青木 空知音楽鑑賞団体協議会(以下空知音鑑)は勤労者音楽協議会から名称変更した組織で、深川・滝川・赤平・沼田を拠点に音楽公演を企画しています。今年の4月からはアートステージと名前を変え、元来のサークル運動を基本に活動しようと考えています。

水溜 具体的にどのようにサークル化するのですか？

青木 有村さんの旭川市民劇場と同じで、年1回は運営に携わったり、音楽会の前にサークルの代表者が集まって、音楽会のプログラムについての要望をまとめたり、交流の場を広げていきます。現在、会員の7割は50〜60代の主婦で、会議はもちろん、公演の時には手づくりのケーキや飲み物を持ってくるなど、和気あいの雰囲気です。

有村 会員持ち回りで手づくりの料理を持ち寄って、出演者や製作スタッフに振舞う機会を設けています。よく喜ばれています。例えば前田美波里さんが食べてくれたらって大喜びしたり(笑)。

水溜 出演者の皆さんたちと交流できるのはうれしそうですね。



MIZUTAMARI Mayumi 水溜真由美
北海道大学大学院 准教授

WAKABAYASHI Ryozo 若林良三
株式会社ウエス 常務取締役

有村 鑑賞組織では会員が主催者で、その仕組みこそが命綱なんです。

生演奏の感動は
ライブでしか味わえない

水溜 大西さんの会社は主に音楽関係を催していますよね。

大西 委託での主催代行もすれば、最近は小規模ですが、自分で交渉して主催もしています。去年「レジエンド」という日本の男性オペラ歌手のコーラスグループや、「カザルス弦楽四重奏団」の運営をしました。

水溜 音楽といっても主にクラシックですか？

大西 そうです。函館はどうしても室内楽などの公演が少ないですから、海外のいいものを市民にできるだけ安く提供できるような形で取り組んでいます。たとえば、若年層を開拓するためにチケットの単価設定を工夫したり、券種を増やしたりしています。

水溜 函館はクラシック音楽のファンが多いのですか？

大西 函館は周辺都市も含めて、札幌との人口比が10分の1くらいですが、クラシックコンサートには札幌の15倍の人が来ています。札幌はコンサートの数が多く、昨今、集客も難しい状況だと聞いていますが、函館は本数が少ない分、「行ってみるか」と思ってもらえるのでしょうか。また、市内の学校の協力を得て、コンサートの前に学校鑑賞をアーティスト側に提案し、実現できるようになりました。

水溜 若林さんは学生時代からウエスにかかわりはじめて、道内を代表するプロモーターとして活躍されているのですか。

若林 全国からアーティストを招へいし、道内・札幌の人にみていただくのが主な仕事です。あと、弊社のリコード会社で地元アーティストの育成をしたり、ライブハウスを運営したり。そうした将来を見据えた人材育成のための環境づくりも行っています。ただし、現在のデジタル社会の進展に、どこまで興行

業界そして我々が進んでいくのか、ちょっと不安な部分があります。

水溜 最近道内各地を巡るツアー公演が少なくなってきたと耳にしたのですが。

若林 以前よりは少なくなつて、たまに札幌以外で公演すると声援がすごく、皆さんに待っていただいているんだと痛感します。情報入手の手段は、映像やテレビ、動画サイトなどで手に入る時代になつても、生演奏の雰囲気や熱さ、感覚や感動はライブでしか味わえない。いかにして道内各地での公演を増やしていくかは今後の課題です。

舞台公演に興味のある人を引き込み、関心のない人にどう広げるか

水溜 最近の経済状況から、鑑賞組織の維持や券売状況が厳しいといわれていますが、その影響は？

有村 感じていますが、企画の良さや人とのつながりで抜けていけると感じています。会員個々が新たに、そして日常的に一人ひとりに声をかけ、舞台の楽しさ、醍醐味を伝えていくことが今こそ大切だと思います。

青木 もともと深川音鑑として活動していましたが、深川だけでは成立しないので、周辺地域と空知音鑑をつくり、活動の幅を拡げて取り組んでいます。
若林 今はパーソナル優先の時代ですから、その中で日時が指定され、お金を払って来てもらう。またはモノではなく、目に見えない感動や思い出しが残らないモノは非常に難しくなってきました。ただし、お客様のニーズに合わせて開演時間も工夫したりしています。

有村 新宿の紀伊國屋ホールなどは、土曜日の夜公演がほとんど無くなり、その替わり、主婦や観光客向けに、平日の昼間の公演(マチネ)を新設しているのですが、そうした舞台作品に興味のある人を引き込み、関心のない人にどうアクセスし、券売まで持っていくかの工夫が大切ですね。

大西 以前、函館市民会館で札幌を担当したとき、

人気のある曲だけを選び、あまり著名ではない指揮者とソリストで公演してみたいです。すると、それまで以上に人が入り、皆さんが一番求めているのは演奏される楽曲・プログラム編成なんだと実感したことがあります。そうしたマーケティングや、アーティストの思い、地域で鑑賞公演を行う使命(ミッション)を的確に判断することが求められていると思います。



青木勝美
空知音楽鑑賞団体協議会
代表幹事

JR(旧・国鉄)に入社。機関助手として勤務する一方、勤労者音楽協議会のサークルに所属する。退職してからは深川音楽鑑賞会の活動を長年にわたって務め、現在は深川市・滝川市・赤平市など空知管内全域の鑑賞事業のコーディネーター役として活躍。また、NPO組織の活動や指定管理者業務なども担当し、管内における広域の活動にも目を配っている。
<http://takionkan.web.fc2.com/>



有村幸盛
旭川市民劇場 事務局長

入社した会社で、職場の同僚が演劇をやっていたのをきっかけに芝居の世界へ。退社後、営利を目的としない会員制演劇鑑賞会「旭川市民劇場」に入局。現代劇から歌舞伎、ミュージカルまで、さまざまなジャンルの演劇公演を年間6回行っている、旭川市民劇場の活動や運営の柱として活躍中。
<http://potato10.hokkai.net/~a-enkan/>



大西赤雄
アート・マネジメント コウ 代表

音響技師として函館市民会館に勤務。1981年の函館市文化祭の創設にかかわり、翌年以降、市民手づくりの創作部門の制作スタッフとして携わる。函館市教育委員会スポーツ課、函館市文化・スポーツ振興財団、函館市教育委員会南北北海道教育センターを経て、2006年退職。地域に根ざしたプロモートを切り開くべく同社を設立した。
<http://amy-hakodate.com/>



水溜真由美
北海道大学大学院
准教授

東京大学大学院を経て、2002年より北海道大学大学院文学研究科に助教として赴任し、2007年より現職。50年代末～60年代初めの各種サークル活動を思想史の観点から研究しており、北海道に来てからは旧産炭地や北海道ゆかりの作家、また、近代演劇、各種古典作品にも関心を持たれている。



若林良三
株式会社ウエス
常務取締役

道内最大手のプロモーターの一つである「(株)ウエス」に入社。全国ツアーのアーティストやグループなどの公演から、道内アーティストの育成まで幅広く事業を行う同社で、「HOKKAIDO ROCK CIRCUIT」のプロデュース(1988～1997年)や「三人の侍」の全国ツアーの企画制作(2006年)などを担当する。2009年7月に常務取締役に就任。
<http://www.wess.jp/pc/>

生のステージは人を結ぶ魔法

水瀧 空知音鑑さんは、50代〜60代の主婦の会員が多いとのことでしたが、何か理由があるのでしょうか。

有村 子育てが一段落して時間的な余裕もあり、好奇心が旺盛な世代でもあるような気がします。特に女性は、友だちと連れだって行くのがうれしかったり、公演後にお茶をするのを楽しみにしていたり。家事や仕事を離れて、唯一の自己開放の場になっている人もたくさんいますよ。

大西 経済的余裕も積極的に自分主導でつくりあげながら、時間を楽しむゆとり、人と人との付き合いの重要さを肌で実感していると思います。

若林 コミュニケーションツールとしても欠かせないですよ。

水瀧 そうした中、地域在住の若い人たちに向けた働きかけはどのようにしているのですか？

有村 まだ結果は出ていませんが、大人より会費を安くしたり、中学生、高校生には年間1本を無料招待し、まず体験してもらおうと企画しています。

若林 Charのコンサートで、当日学生証を提示すると3000円をキャッシュバックする「学割」というサービスをやりました。

大西 会場でのキャッシュバックはいい案ですね。

有村 若い人が演劇やコンサートに行かなくなつたのは、学校での演劇公演や音楽鑑賞教室が減り、生のステージに触れていないというのもあると思う

のです。

青木 学生時代のうちから生の音楽や演劇をみることで、家族を持ってもらいフスタイルの習慣になつていく可能性がありますね。

若林 海外では日曜日になると、お父さんが子どもにきれいな服を着せて、一緒にミュージカルなどを見に行くそうです。やはり継承していくには、次の世代にどうみせていく工夫をしていくかは大きなテーマですね。

これからは二極化していく時代
だけど、変えられないものがある。

水瀧 皆さん、道内各々の地域性というのはあるのでしょうか？

有村 旭川くらいの規模ですと、文化団体や音楽団体関係者はほとんど顔見知り。とてもやりやすいですし、普段着で来てもらえる気軽さがあります。

若林 全国ツアーなどで、昔は地域で曲目や曲順が変わっていたのが、今は全国ほぼ一緒です。曲目が全公演統一されてファンに平等ではあるものの、パッケージ化されてしまった感があります。

有村 観光と文化芸術は接点があつて、言い古されていますが、北海道という魅力では、食べものはおいしいし、景色もきれい。他の地域と公演スケジュールが重なった時には、そうした強みで役者やアーティスト

トの心が動いたりしますよ。

若林 北海道の良さをトータル的なビジネスに生かしていきたいですね。たとえば、地域の特産品を会場で売ったり、マチネー公演時に軽食を売ったり、サントリーホールみたいにかつこよくお酒を楽しめたり。舞台公演のホスピタリティは、海外では当たり前前で、家族でも行きやすい場の設定がある。家族単位で楽しめるよう、総合的に「楽しかった」といわれるような方向に発想転換する時期なのかもしれないですね。

青木 深川では商店連合会と組んで、チケットをポイントカードで買えるようにしました。今つばいでしよう(笑)。こんな方法も僕たちの時代から次世代へつなぐ仕組みづくりのひとつだと思います。

有村 会員組織の一番の強みは人であり、顔が見える関係なんです。一方で、インターネットを好む世代ももちろんいます。これからは双方が二極化して続いていく時代なのだと思います。

若林 根本は人を結ぶこと。ここにそろうたメンバーのような舞台の魔法にかかった人たちは、舞台を通して観客とアーティスト、実演家団体、マネジメントなどを結ぶ存在であり、そこは絶対に必要なもの。「今が旬、そして本物になる可能性を持ったアーティストを生むのステージで育み、また、お客さんもそのひとときに魔法にかかってほしい」。これは変わらない、変えられないものなんです。



HOKKAIDO ARTS FOUNDATION
財団法人 北海道文化財団

北海道文化財団「アートなスペース」

財団事務局内に、新たな空間が生まれました。今回のような座談会、活動報告会、ゲストトークの会場としてや、各種展示、活動紹介、ミーティング、サテライトスペースなど

利用形態はご相談次第!!
お気軽にお問合せください。





松前町

松前中学校吹奏楽部顧問

寺川亜希

ウインドアンサンブル・ポロゴとの夢の協演

私がこの学校に勤務して6年。そして昨秋初めて、全校生徒たちと町内中学校の生徒が、木管楽器の生演奏を肌身で体験出来る機会を得ることが出来ました。

2009年10月28日(水)、演奏会は本校体育館で行われました。演奏者は5人との距離を最大限に縮めたセッティングの中で、演奏を聴くことになった生徒たち。2〜3メートルという間近で見る演奏者から伝わる熱気と迫力。そして木管楽器の心地良い音色が体育館全体に満ち溢れ、生徒たちの目は輝きました。

演奏会に遡る10月10日(土)、吹奏楽部の部員は、事前にワークショップを行ってほしい、パート毎に丁寧にその専門的な指導を受けることが出来ました。部員たちはその日をずっと心待ちにしており、ポロゴのみなさんを笑顔で迎え、そして自分たちの音と楽器毎にもつ特有の音色の創り方、アンサンブルのポイントを教えてもらいました。

「文化の宅配便」は、アーティスト自身から直接指導によるワークショップがあることに加え、ポロゴのみなさんが公演前日に最後の仕上げのリハーサルを行う姿を直に目にし、どのようにして複数の音楽家が複数の楽器で楽曲を組み立てていくのかを知る貴重な機会になりました。本番では、あたりまえのよう

に息の合った演奏を行うため、そして今日より明日へと完成度の高い音楽を創るため、一人ひとりが相手の奏でる音と会話しながら、真剣な眼差しで演奏に取り組む5人の姿を、生徒たちはじっと見入っていました。それは、音楽の真の姿を肌で感じさせていたように感じました。

そして演奏会では2曲を協演させていただき、この経験は吹奏楽部員にとつて、忘れられない宝物となりました。演奏曲自体がもつ表情を再現するため、演奏する身体や目線の動き、息使いまでまるごと感じられる空間は、いまやどこでも普通になったデジタル媒体での音楽鑑賞では得られない感動が伝わります。

演奏会後、生徒たちからは「のだめ」や「スイングガールズ」のように音符が舞っているのが見えました。また聴きたいです等という声が多く聞かれました。

ポロゴのみなさん、親切な指導と、心通うふれあいをありがとうございました。私自身、今後さらに音楽の素晴らしさを、改めてより多くの生徒たちに伝えていきたいと思っています。

平成22年度の開催地等を募集中!!

北海道文化財団 文化の宅配便

文化の宅配便は、主に鑑賞環境の場が整備されていない地域に、小規模な鑑賞公演とともにレクチャーやワークショップ(参加型講習会)等の普及活動を組み合わせた事業を実施します。主催である当財団が経費のほとんど(出演費、旅費、宿泊費等)を、開催地の共催先は一部経費(会場・広報宣伝経費等)を負担します。入場料は原則無料としています。

■今年度のアーティスト/団体は、次の通りでした。

金子竜太郎/札幌室内歌劇場/ウインドアンサンブル・ポロゴ/沢則行ユニット・リトルバレエ/熊谷和徳/アーティスト・イン・スクール

北海道文化財団 アートプロデュース体験講座

アートプロデュース体験講座は、地域で文化活動に携わる関係者等と一緒に舞台制作のプロセスを体験し、併せて地域人々が自ら文化活動へ参画する実施方法を学び、実践し、今後の活動のリーダーとなる人材を育成します。今年度は、講師の札幌在住の脚本・演出家清水友陽さんなどが、七飯町文化センターを会場に、「演劇塾ななえ公演実行委員会」のみなさんと共に、昨年7月から9ヶ月にわたりダンスやセリフの稽古などを連続講座として実施しました。

2009年10月10日(土)・28日(水)

ウインドアンサンブル・ポロゴ

「一緒に音楽を作ろう!~木管五重奏の楽しみ」

フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン編成

■協演(合奏)のためのワークショップの内容

基本的奏法技術、アーティキュレーション、アンサンブルのポイント等をマスタークラス方式のクリニックで、開催地の指導者と一緒に内容を進めました。

■ミニ演奏会

個々の楽器の特色を生かした、普段良く耳にするポピュラーな曲目や木管五重奏のための作品を演奏。プログラムの中で開催地の児童生徒との協演(合奏)を行いました。

その成果発表は、2010年2月28日(日)の模擬公演

ナナエノキセキ

一ひとつの木になる、おおきなりんごー

となりました。

■これまでの開催地/由仁町、白老町、深川市、稚内市、苫前町



七飯町

演劇塾ななえ公演実行委員会
実行委員長

■ 山下堅一



演劇塾ななえ公演「ナナエノキセキ」の軌跡



平 成20年3月、これまで町内外から親しまれてきた「七飯町民劇場」が20年間の活動に幕を下ろしました。それを惜しみ、その灯を絶やしてはならないという思いで新たに結成されたのが「翔民劇団ななえ」でした。私たちは、手探りの段階ながら、町民の皆さんにその存在を知ってほしく、立ち上げ公演を企画し実施しました。

『子どもたちの心に文化・芸術の種が芽吹き、さらに花開いて、この七飯町から文化芸術が普段の生活の一部として発信出来るようにしよう！』それが私たちの願いでした。しかし短期間

での企画から運営、脚本づくり、舞台運営など課題と反省の多い立ち上げ公演となりました。

そんな時、演劇やダンスを専門の人たちから直接楽しく学びながら、文化への興味を深めてもらい、舞台制作を通じた地域づくり目指している「アートプロデュース体験講座」が道南で初めて七飯町で行われることになり、さっそく実行委員会に入り活動を開始しました。

講師には札幌の劇団「Water3391」を主宰する清水友陽さんを招き、1回目の講座では、100年後の七飯町を

想像しながら参加者が自由に語り合い、清水さんがその内容を聞き取りながら脚本にしてもらい、翌日30分間の劇を創り発表しました。

2回目はジャズダンスやヒップホップなどを体験する、3回目は戯曲の読み方を学ぶ等々、舞台公演の基本や約束事などをやさしく親切に教えていただき、子どもたちもすっかり清水さんのファンとなり、舞台表現の楽しさを存分に味わってきました。

この「北のとびら」の原稿を書きながら、稽古も最終段階に入りました。模擬公演の上演を目指して、清水さんと参加者が一緒になってやってきたこの期間。新たな文化・芸術を育む「アートプロデュース体験講座」で学んだ実践的な講座を活かした上演を、お客さんたちと共に楽しみたいと考えています。

この講座を行えた力と舞台人との繋がりを通して、「翔民劇団ななえ」の今後の演劇活動と地域の人たちが協力して舞台作品を創ることで、七飯さらには道南地域の活動が新たな軌跡を描き上げていくきっかけとなり、ますます盛んになればと思います。

北海道文化財団 文化交流事業

『2009光州平和演劇祭』(韓国)で「北芸」が最高賞を受賞

平成18年度から始まった韓国光州広域市との文化提携交流事業は、提携協定に基づき、演劇交流活動(隔年毎に招へい公演)を実施しています。

今年度は、釧路市の劇団「北芸」が『2009光州平和演劇祭』に参加し、最高賞にあたる光州平和演劇賞を受賞しました。また、この演劇祭期間中同じ作品が光州の劇団によっても上演されました。

上演作品:『この道はいつか来た道』(脚本:別役実)
出演:加藤直樹(出演・演出)、森田啓子

■これまでの歩み

- 平成18年度 交流意向書を締結
- 平成19年度 劇団「TPS」が『2007光州平和演劇祭』に参加
- 平成20年度 光州劇団「青い演劇村」が『札幌劇場祭』に参加





03

撮影した映像をパソコンで編集。映像の意味、組み立て方などをここで経験。

01

基本的なカメラの使い方などを教わる。

02

今回は外での撮影。円山動物園でロケーション。

素晴らしい短編映像の世界 [3]

短編映画と映像教育

前回まで、短編映画（以下ショートフィルム）とはなにか？
また、映画祭はどんな役割を負っているのか？
など書いてきましたが、
第3回はショートフィルムは映像教育にとっても
とても重要なフォーマットである事をお話します。

久保俊哉 KUBO Toshiya

■メディアプロデューサー
■SAPPOROショートフェスト実行委員会プロデューサー

私が「札幌国際短編映画祭」の構想・企画を立てたのが1990年。そのときに映画評論家の登川直樹先生にアドバイスをいただきました。先生のお話は「ヨーロッパでは映像教育が義務教育に組み込まれている国があるんだ」という内容でした。そしてショートフィルムがその映像教育の良い手本になるということを知り、ショートフィルム＝映像教育のコンテンツというアイデアが生まれました。

映像教育といえば、モニタージュ理論（※

1）が有名ですが、簡単に言えば、映像の組み合わせで意味を表していく方法なので、子供にとっても難しくはないのではと、2001年あたりから（※2）子供の映像制作ワークショップなどを行ってきました。子供たちはすんなり映像作りを理解し、むしろ大人よりも、非言語である映像を理解する力はあるのではないかと思えました。事実、産業技術総合研究所の豊田誠博士によると、「アンダー13」といって、13歳までに映像を理解する脳が固まってくるそうで、小学校で映像理論を教えるのは効果的と話しています。

ショートフィルムの映像教育的価値はたくさんあります。ショートフィルムを鑑賞すると、短いからこそ、それぞれのシーンやカットすべてに意味があることを知ることができます。これは映像を自ら創るときにはとても重要な事です。また、どんな巨匠の監督も短編を作ったことがない監督はほとんどいません。むしろ短編にこそ、その監督のスタイルなどが表現されていることが多いのです。一つ一つのカット、そのアングル、長さ、編集、音楽など総合的な要素を考えながら映画は作られていることを意識し検証できるのも、ショートフィルムの有効な活用方法だと思います。そういう意味でも映像教育の教材として有効だと思います。

映像教育がもたらす事として、子供たちのコミュニケーションの手段が文字や言葉だけではなく、ビジュアル（絵画や写真）とムービングイメージ（映像・音楽）などが加わる



06



05

アイデアだしては
子供の相談にのる講
師の島田英二監督。



04



07

撮影での注意事項を説明。
社会教育的にも映像の勉
強は重要な意味を持つ。

The World of Wonderful SHORT FILM

写真／地域子どもネットワーク「みんなの森」と
SAPPOROショートフェスト実行委員会の共催で
2009年に行った「小中学生デジタル・ムービーワークショップ」
「未来の映画監督になろう」森の動画づくり」より。
http://www.e-minnanomori.com/2009_after/pg88.html

目指すミュージシャンが今では当たり前前
のように出てきていますが、映像の世界でも、
家庭用のデジタルビデオカメラで撮影し、
パソコンで映像を編集する。役者も音楽も仲
間が作る。まるでバンドのような映像制作者
たちがどんどん増えています。長編映画がク
ラシック音楽とするならば、ショートフィル
ム（短編映画）は、まさしく音楽でいうところ
のポップスやロックなのではないでしょうか？
最近ではデジタル一眼レフカメラでHD
（フルハイビジョン）の動画が撮れるまでに
なりプロもその方法をとっています。

ことごと
のような可
能性がある
でしょうか？私
は、言語を超え
た表現とコミュ
ニケーションで、
子供たちがもっと自
由に世界中と理解し
合うことが可能になる
のではないかと期待して
います。
現代は、以前よりも動画
を撮影することが容易になっ
てきています。エレキギター
が登場し、アマチュアからプロ
が登壇し、ミュージシャンが今では当たり前前
のように出てきていますが、映像の世界でも、
家庭用のデジタルビデオカメラで撮影し、
パソコンで映像を編集する。役者も音楽も仲
間が作る。まるでバンドのような映像制作者
たちがどんどん増えています。長編映画がク
ラシック音楽とするならば、ショートフィル
ム（短編映画）は、まさしく音楽でいうところ
のポップスやロックなのではないでしょうか？
最近ではデジタル一眼レフカメラでHD
（フルハイビジョン）の動画が撮れるまでに
なりプロもその方法をとっています。

※1 モンターージュ理論
ソ連の映画監督セルゲイ・エイゼ
ンシュテインの代表的映像理論
の一つで、視点の異なる複数の
カットを組み合わせて意味を表す
技法。

※2 2001年あたりから
2001年ごろから小学生を中心と
した映像作りのワークショップを
映画祭と小学校や地域のPTA
の方々（地域子どもネットワーク
「みんなの森」など）と主催で行っ
てきており、映画祭開催時には
「映像教育フォーラム」を開き事
例発表表を行っている。

また、ショートフィルムは「ピュアな映
画」ともいわれています。たとえて言うなら
ば、シンガーソングライターが作った音楽の
ようなものみたいな感じでしょうか。大きな
予算で商業的成功だけを目的としているわけ
では無く、純粋に映像表現として制作された
ものが多いからです。若い頃から多様な映像
表現に触れるなど、基礎的な映像理論の習得
を学校教育などの中で整えることで、映像文
化全体の底辺拡大に繋がると考えています。
映像をひもとく力「メディアリテラシー」も
この映像理論を学ぶことで、映像の文法を習
うように、技術的にも理解することができ
ようになります。
ショートフィルムは、教育との接点をもっ
と持つことにより、底辺の拡大を経て、劇場
用長編映画とは、サイズ（長さ）も見る場所
も、見せ方すら違う。そんな映像による自己
表現として、また産業形態として現れてくる
のではないのでしょうか？そして、見え方だけ
でなく制作の体制も違ってきます。若い映画
作家たちも街にあふれ、カメラとパソコンを
手にし、仲間同士で街中を撮影したり、演技
をしたり、地域の元気を創り出し、互いに理
解しあえるメディアコンテンツとなる可能性
があるのではないのでしょうか。
(完)



1 然別湖ネイチャーセンター

住所／河東郡鹿追町然別湖畔
Tel／0156-69-8181
営業／9:00～18:00 定休日／年末年始
<http://www.nature-center.jp/>

ネイチャーガイド 石川 昇司さん
Shoji Ishikawa

平成2年、日本初の私設ネイチャーセンターとして産声を上げた「然別湖ネイチャーセンター」。大雪山国立公園内に水をたたえる然別湖と、その湖畔をフィールドに、箱メガネで川の中をのぞくリバーウォッチングや、森林にめぐるワイヤーロープを使って、野鳥の気分を体感するエア・トリップなど、自然をそのまま体感できる多彩なプログラムを展開しています。

チーフマネージャーの石川昇司さんは、18年前の草創期からネイチャーガイドとして活躍し、然別湖周辺の自然を熟知しているベテランスタッフ。「隣の土幌町で生まれ育ったので、然別湖は子どものころから大好きな遊び場でした」。石川さんは、もともと

大自然の魅力を伝える然別湖の案内人

札幌でホテルマンとして働いていましたが、ふと手にしたアウトドア雑誌で同社の存在を知り「故郷の自然に囲まれて、こんな仕事をしてみたい」と、この世界に飛び込みました。

然別湖は、北海道の湖で最も高い標高に位置する、特殊な自然環境を持ち、「くくく」と移ろう風景は、見飽きることがない。なかでも僕は、とことん凍った冬の静寂が好きです。

そんな然別湖の魅力を、地域の次世代に伝えようと、小学生を対象とした自然学習プログラムにも取り組み始めたそう。「毎日が発見です」と、日に焼けた笑顔で湖を見つめる石川さんの眼差しは、父のように優しい。

1. 冬の然別湖に旅行者を呼び込む火付け役となった「水上露天風呂」
2. スノーシューを履いてカラマツやエゾマツの森を案内する冬限定のツアー
3. 「動物の目線で自然を見ると、発見がいっぱいですよ」と話す石川さん



陶芸作家 三上 慶耀さん
Keiyou Mikami

地元の土を慈しみ、鹿追焼の継承と開拓を担う

鹿追町美蔓地区で採掘された良質な粘土を使い、男性的な土肌や素朴な風合いを表現する、郷土陶芸「鹿追焼」。三上慶耀さんは、平成5年から鹿追窯で腕を磨き、その後継者として6年前に窯元を受け継いだ、新鋭の陶芸作家です。

鹿追産の粘土は、鉄分を多く含む粘り気が強く、黒味を帯びた独特の焼き色の特徴。三上さんは、そんな土の質感を生かした鹿追焼の伝統的な作風を継承する一方、「この土の新しい個性を引き出したい」と、長沼町の陶芸作家・岩井孝道さんに師事し、新境地を模索してきました。

そこで挑み始めたのが、鹿追産の農産物を使った新釉薬づくり。「小豆、ソ

バ、トウモロコシ、トマト… 10種類以上の作物で何度も試作を繰り返し、ようやく見つけたのがコレ」。鹿追産カボチャの茎や葉の灰を利用したオリジナルの新釉薬です。

そして平成20年、三上さんは、このカボチャ灰の釉薬を使い、十勝の雪原をイメージした新作「青澄」を誕生させました。その名の通り、陶肌を優しく包むのは、薄暮の雪原を思わせる、清々しいスカイブルー。そこに浮かび上がる繊細なグラデーションは、まるで雪上に描かれた風紋のようです。

地元の土と農作物を生かし、十勝の風土をかたどる——。三上さんは、鹿追焼の継承者であり、新境地を探る開拓者でもあるのです。

1. 新作の楕円形皿のフォルムを、目を輝かせてチェックする三上さん
2. 釉薬の完成までは、長石を使って何百通りものテストを繰り返す
3. カボチャ灰の釉薬を使った「青澄シリーズ」



住所／河東郡鹿追町東町3-2
鹿追町民ホール内 陶芸工作館
Tel／0156-66-3738
営業／8:30～17:30
定休日／土・日曜、祝日

鹿追窯

菅 訓章さん [神田日勝記念美術館・副館長]

SUGA Noriaki

鹿追町生まれ。鹿追町教育委員会社会教育主事、鹿追町図書館司書を経て、平成3年より神田日勝記念美術館のオープニングスタッフとして主査を務める。平成19年、副館長に就任。現在も学芸員を兼任し、幅広い層が楽しめる“ファミリー美術館”を目指し、地域発を重視した展覧会や教育普及事業を積極的に企画・運営している。画家の自画像を集成した「新世紀の顔・貌・KAO」「つくばの洋画家たち」(4月27日～5月7日)、「水彩人・北海道展」(6月中旬)の開催を企画中。

高野 薫さん [鹿追町文化連盟理事長]

TAKANO Kaoru

鹿追町生まれ。鹿追町文化連盟の常任理事を経て、平成16年より理事長に就任。短歌、俳句から、茶道、囲碁、民謡まで、約30の文化・芸術団体が所属する鹿追町文化連盟はじめ、町内で開催される文化・芸術イベントなどに尽力する。現在は今年創立50周年を迎える「鹿追町文化連盟」の記念誌の刊行準備、創立記念イベントの企画を手がけている。自身も「鹿笛会(俳句)」、「鹿追文好会(随筆)」「神田日勝記念美術館友の会」に所属。

藤田 均さん [酪農教育ファーム経営]

FUJITA Hitoshi

鹿追町生まれ。昭和12年から続く藤田牧場の3代目。酪農業を軸に、平成8年から観光体験牧場として修学旅行生の受け入れをスタート。日本中央酪農会議が認証する、酪農や農業、自然環境、自然との共存関係を学ぶことができる「酪農教育ファーム」として、地域や学校と連携しながら牧場体験を実施し、子どもたちへの教育活動を支援する。欧風スタイルの「グリーンツーリズム」と酪農教育ファーム「ファームイン」。2つの要素を融合させたオープンファームを目指す。

マイズさん [フォークデュオ]

My's

鹿追町生まれの白岩元記、上村洋介によるフォークデュオ。平成16年、「うたごころ」を強くアピールできるアーティストを選ぶ、全国オーディション「うたごと」でランプリを獲得する。平成17年、1tsマキシシングル「牛追いとタンポポと君と…」でデビュー。その後もマキシシングル「道標」「答」、全6曲を収録したミニアルバム「家族の笑顔で地球がまわる!」をリリース。十勝を拠点に、北海道系スローライフミュージックという新ジャンルを切り拓いている。

三反崎 順也さん [鹿追町自然体験留学センター指導員]

MITAZAKI Junya

埼玉県生まれ。自然豊かな鹿追町で、子どもたちの教育に携わる仕事がしたいと、名古屋から鹿追町へ移住。平成9年、鹿追町自然体験留学センターでボランティアを務めた後、指導員に。山村留学生として、全国各地から集まった小・中学生たちの日常生活や野外活動の監督・指導を手がける。毎年、小・中学校の夏休み期間に開催するサマーキャンプでは、キャンプや乗馬体験など、鹿追町の自然を体感できるプログラムを企画し、地元の子どもたちからも人気を集めている。

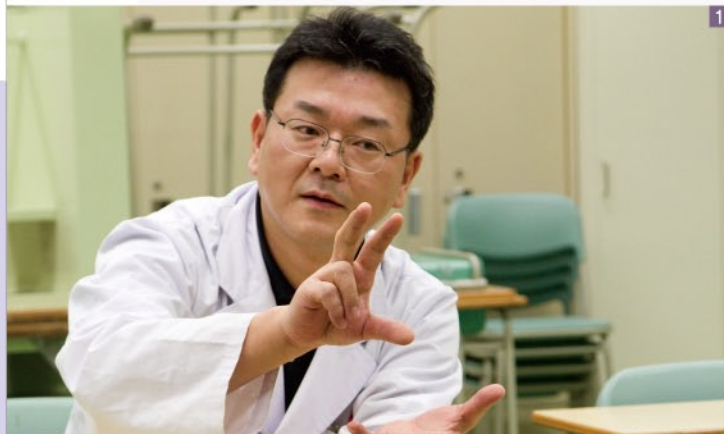
山田 壮一さん [鹿追町白蛇姫舞保存会・会長]

YAMADA Souichi

昭和47年、アイヌの女神が白蛇を伴って飢饉から民を救った——という伝説をもとに、地元の青年会や商工会のメンバーが中心となって創作した、郷土芸能「白蛇姫舞」の保存・継承に尽力する。15年間、副会長を務めた後、平成19年より会長に就任。全長14.4mの親蛇と、8mの子蛇を、担ぎ手がいきいきと操る、緩急と上下動の幻想乱舞はまさに圧巻だ。毎年7月第1土曜に、然別湖畔で開催される本祭「白蛇姫祭」は、今年で39回目を迎える。

人から人へ。一人から大勢へ。アートや生活文化の可能性は、人を通して無限に広がっていきます。地域の文化を支えているさまざまな方たちをとらえて北海道各地の文化を紹介します。

文・暮西麻衣子 / 写真・亀畑清隆



高校演劇界に新風を吹き込む熱き指導者

演劇指導者 井出 英次さん
Hidetsugu Ide

昨年11月、函館市で開催された「高校演劇北海道大会」に、新風が吹き込まれました。全道大会初出場、総勢5名の鹿追高校演劇同好会が最優秀賞に輝き、全国大会出場という大金星を手に入れたのです。

演劇同好会が発足したのは、わずか3年前のこと。もともと同校に演劇部はなく、前任の幕別高校で演劇部の指導をしていた井出英次教諭の転任と、中学時代、演劇の経験があった上村牧さんの入学がタイミング良く重なったことが、演劇同好会誕生のきっかけだったそうです。

本も手がけ、生徒たちの成長を支えてきました。「少人数は不利な要素もありますが、逆に、一人一人のキャラクターが立つという利点もあるんですよ」。

ご自身も高校時代、演劇に打ち込み、井出教諭が脚本を手がけた創作作品で全道大会に出場した経験も。「舞台の台詞や細かな仕種には、目に見えなくても、人と人のつながりや背景がある。そこで生徒自身が立ち止まり、掘り下げて考えることで、高校生らしい芝居が生まれる。そのプロセスを大切にしたいんです」

全国大会は8月——。鹿追高校演劇同好会の新風は、津軽海峡の向こうにもきつと届くでしょう。



2



3

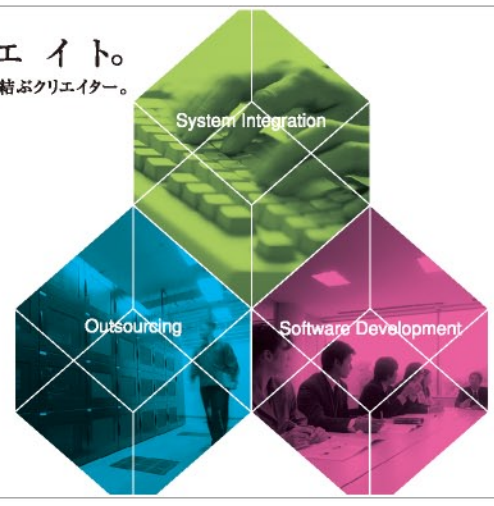
1. 十勝管内の前任教を含め、演劇指導歴は16年という井出教諭
2. 9月の地区大会に向けて、演劇同好会のメンバーと朗らかに話し合う
3. 全国大会に挑むオリジナル脚本。これまでに手がけた脚本は15本以上にのぼる

鹿追高校演劇同好会

住所 / 河東郡鹿追町西町1-8
TEL. / 0156-66-3011

ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を先進のITで結ぶクリエイター。



3つの事業をリレーション。
最適な情報システムの提案、構築、運用を
万全のセキュリティで総合的にを行います。

- **システムインテグレーション事業**
求められるニーズに対し基本設計から保守に至るまで総合的なソリューションを行います。
- **アウトソーシング事業**
万全のセキュリティ対策で、お客様の事業における情報化投資の削減をサポートします。
- **ソフトウェア開発事業**
プロジェクトマネジメント力を生かし、確かな品質と最先端の技術力を提供します。

HBA 株式会社 HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8
TEL.011-231-8301 FAX.011-281-0915
http://www.hba.co.jp/

2010.3/25(木) 18:30開演/大ホール
Kitara オペラプロジェクト
モーツァルト「フィガロの結婚」
演奏会形式、原語上演
[全席指定 (税込)] SS完売 S5,000円 A4,000円
B3,000円 学生各席1,000円
音楽監督、指揮/高岡 健 管弦楽/札幌交響楽団
ナレーション/石井 雅子 伯爵/則竹 正人
伯爵夫人/高坂 淳恵 サザンナ/増田 享子
フィガロ/濱水 邦典 他

2010.5/3(月・祝) 14:00開演/大ホール
きがるにオーケストラ~大作曲家の世界
[全席指定 (税込)] S3,500円 A2,500円 B2,000円 小中高生各席500円
指揮/クリストファー・ウォレングリーン
ナビゲーター/中川 賢一 管弦楽/札幌交響楽団
[お問合せ先] Kitaraチケットセンター TEL.011-520-1234

札幌コンサートホール

割引・先行購入など特典いっぱい

Kitara Club

新会員募集中

札幌コンサートホール [Kitara Club 事務局]
札幌市中央区中島公園1-15
TEL 011-520-2580 [10:00~18:00] (休館日を除く) ※毎月 第1・第3月曜日は原則休館日

<http://www.kitara-sapporo.or.jp>

Kitara モバイルサイトへGO!

HOKUSEN CARD

ひとりひとりの、いまと、つぎへ。

<http://www.hokusen.jp>

HOKUSEN MY CARD PROJECT!

あなたの一枚、をめざして。

株式会社 ほくせん
本社/札幌市中央区南2条西1丁目 北専ビル
TEL (011)261-6101

<h3 style="margin: 0;">音楽コース</h3> <p style="margin: 0;">声乐専攻 鍵盤楽器専攻 作曲専攻 管弦打楽器専攻</p>	<h3 style="margin: 0;">美術コース</h3> <p style="margin: 0;">書専攻 絵画専攻 彫刻専攻 メディアデザイン専攻 工芸専攻 実験芸術専攻</p>	<h3 style="margin: 0;">芸術文化コース</h3> <p style="margin: 0;">アートマネジメント専攻 芸術教育専攻 芸術理論専攻</p>	<h3 style="margin: 0;">スポーツ教育コース</h3> <p style="margin: 0;">スポーツ・コーチング専攻 健康・スポーツ科学専攻 アウトドア・ライフ専攻</p>
<h2 style="margin: 0;">北海道教育大学岩見沢校</h2> <p style="margin: 0;">芸術課程・スポーツ教育課程</p> <p style="margin: 10px 0;">http://www.iwa.hokkyodai.ac.jp</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>オープンキャンパス 第1回 6月26日(土)</p> <p>〒068-8642 北海道岩見沢市緑が丘 2-34-1 Tel : 0126-32-0213 / Fax : 0126-32-0251 Mail : kyoumu@iwa.hokkyodai.ac.jp</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">Design : アートマネジメント美術研究室 安中太一</p>			